

深田久弥氏は、山の品格、山の歴史、山の個性という観点から日本国内の山の中から100を摘出し、『日本百名山』として上梓した。道内の山からは、9個が選ばれており、5師団管内では、羅臼岳(1661m)、斜里岳(1545m)、阿寒岳(1503m)、トムラウシ山(2141m)、十勝岳(2077m)が選ばれている。阿寒岳という山はないので、雌阿寒岳と雄阿寒岳の双峰を指しているものと考えられる。尚、十勝岳とトムラウシは2師団との境界線上にあり、「おらが山」と堂々とは言えない。去る7月12日(～13日)には、十勝支庁長からの災害派遣の要請があって、トムラウシで台風のため衰弱した登山者を当師団の戦車大隊、対戦車隊及び飛行隊が救出するというハプニングがありました。中高年者の登山ブームは結構なことです。しっかり自己管理が出来て自己責任を果たして貰いたいものです。

さて、管内市町村名の由来の3回目、最終便です。

- ① 東藻琴村：藻琴は、アイヌ語「ムクトゥ」から転訛、尻の塞がっている沼の意である。
- ② 女満別町：女満別とは、アイヌ語「ミムヤムベツ」より、転訛、即ち「ミム」は泉、「ヤム」は冷たい、「ベツ」は、大きな川で、此を意識すると冷たい泉の湧いている川となり、現在の湯ノ沢温泉(冷泉)付近を呼称していたのでは。
- ③ 美幌町：美幌はアイヌ語「ピポロ」より、転訛、水多く大いなる処の意で、この地一帯は水利良く地域広潤地味肥沃な農耕地であるに由来したものである。
- ④ 津別町：津別とはアイヌ語「ツベツ」より転訛、川の合流する意である。この地域は小河川の合流するものが多いため、アイヌ人は「ツベツ」と呼称したものである。
- ⑤ 斜里町：「シャリ」は、アイヌ語「サルイ」の転訛したもので、芽の生えている処の意である。寛政年代の文献には、「舍利」の文字を当てている。
- ⑥ 小清水町：小清水の名称は、昔釧路街道を往来する旅人の喉を潤す泉が沸々として湧出していた事に胚胎する。
- ⑦ 端野町：アイヌ人がこの地を「ヌブンケン」と呼称していたが、その意「野の端」を端野の字に当てて命名した。
- ⑧ 訓子府町：訓子府はアイヌ語「クンネプ」の転訛で、黒い所、或いは、湿地多く多く水黒しと言う意である。昔、本村一帯は、湿地で濁った水が淀んでいたため、アイヌ人は「クンネプ」と呼んでいたものと思われる。
- ⑨ 置戸町：置戸とは、アイヌ語「オケツウンナイ」の「オケツ」より転訛したもので、川尻に獣皮を乾かすはり枠のある谷川の意である。鹿皮などを張って乾かす枠を「ケツ」と言うのである。
- ⑩ 留辺蘂町：留辺蘂とはアイヌ語「ルベンシベ」より、転訛したもので、路下る所の意である。本村は、佐呂間峠を下りたる所にあるので、アイヌ人斯く呼称していたものであろう。
- ⑪ 常呂町：常呂とは、アイヌ語「トコロ」に常呂の文字を当てたもので、沼、湖水のあ

る所の意である。

- ⑫ 網走市：網走とは、古語「アパシリ」（入り口の地の意）の転訛、海岸から内陸への入り口として重要な地であった事に由来する。（網走市のHPから）ここで言う古語とは何かについては網走市に確認していないが、常識的にはアイヌ語と考えて良いのではなかろうか。
  - ⑬ 清里町：清里とは、調整施行時に清く住み良い里という意味と小清水村と斜里町から分村して成立した歴史に基づき命名した。
  - ⑭ 北見市；北見市は、松浦武四郎が命名した北見国の中心に位置し、この地域の人的・物的交流の中心地である事から、市制施行に伴い改称。（同市のHP）
- （参考：道東資料館蔵 北海道郷土史、各市町村等のHP）